

地理歴史科 地理総合 学習指導案

授業実践者：広島県立福山明王台高等学校 青本 和樹

1. テーマ 「思考の見える化」によって事象を分析し、「立場性¹」を意識して地理的課題を捉える

2. 日時 令和5年11月22日(水)

3. 場所 広島県立福山明王台高等学校

4. 対象 第2学年

5. 単元

単 元 名：世界の食料問題

単 元 を 貫 く 問 い：世界の食料問題解決は「食料を援助する」「食品ロスをなくす」ことで十分か？

総 括 的 な 課 題：単元を貫く問い「世界の食料問題解決は『食料を援助する』『食品ロスをなくす』ことで十分か？」について論証(根拠を基に自分の考えを表現)しよう。

6. テーマと単元の設定理由

○単元観

地理総合、大項目B「国際理解と国際協力」、中項目(2)「地球的課題と国際協力」のうち、食料問題を主題として設定した単元である。この単元では、現代世界において地球規模で進行している食料問題を、空間的な広がりや関わりに留意して、各地に共通する傾向性や相違点、他の課題との関連性の視点から捉え、ある国や地域のみでの取組では解決できない世界全体の課題であることを理解させることをねらいとしている。

食料問題を取り扱う実践は先進諸国の食料問題、発展途上国の食料問題と分けて考えるケースが多い。しかし、地域・空間のスケールを意識せずに分けて考えることに留まり、先進諸国と発展途上国間の関連性や発展途上国の中でも国によって置かれている状況が異なることなどの考察が乏しかったり、解決策を考える際に先進諸国側の視点のみで考え、発展途上国側との合意というところまで考慮されていなかったりするという、「立場性」が欠如ないし不足しているという課題がある。例えば、戸井田(2022)は、食料問題を地理の実践として行う場合、地域・空間のスケールを意識的に拡大・縮小させながら比較考察する必要性を指摘している。スケールを変えるということは、取り扱う地域・空間スケールを変えるだけでなく、国家間のつながりやその国・地域ごとに置かれた「立場性」を意識することも重要であると考えられる。また、奥田(2021)は、ある問題の全体像に迫るには、その問題の多面的な分析や解決策の多角的な理解が必要であると主張している。

¹ 本実践においては、地理的な事象について自身や自国が置かれた状況や、他の学習者や他国が置かれた状況などを比較しつつ、どちらか一方の視点だけではなく、双方の状況を考慮したり、自身を相対化させて捉えたりして考えるという意味で使用している。

○生徒観

1学期は主に地図と日常生活、グローバル化と世界とのかかわりを主題に学習し、その中で地理的な事象が自らの生活ともかかわりがあることに気付きはじめており、地理的な見方・考え方を働かせようとするができるようになってきているものの、未だに自らの生活との関連付けや根拠を基に自身の考えを形成することができていないことや、地理的な事象を単純（一元的であったり、事象間や主体間のつながりの考慮の欠如があったりする）に捉えてしまうことなどに課題がある。また、生徒自身が考えや理解を可視化して表現できないことも課題である。

実際に令和5年8月に行ったアンケートでは、「地理の学習において、地理的な見方・考え方を意識しているか」という質問に対して否定的に答えた生徒は20%に留まったが、「地理の学習において、自分の生活と関連付けて考えることができていないか」という質問に対して否定的に答えた生徒の割合は42%と高い。

また、「食料問題を抱える国はどのような国か」と問うと、「経済的に厳しい国」「貧しい国」「アフリカ」「発展途上国」などのような答えがほとんどで、日本を含む先進諸国で食料問題が起こっていることや世界中で起こっている食料問題に自分たちも関わっているという捉え方はできていない。さらに、「食料問題など地球的な課題の解決に向けて大切なこと」について問うと、「食べ物を援助すればいい」など自分たちの「立場性」を考慮せず、他人事のような答えが多くあり、また、「食品ロスをなくす」など自分たちも関係性のあるような答えも多くあるものの、なぜ「食品ロスをなくす」ことが食料問題の解決につながるのかという理由（根拠）とともに説明されていたものはなかった。

一つ前の単元である「世界の環境問題」では、アマゾンの森林伐採を事例に、多様なステークホルダーに着目して環境問題の責任や他の環境問題との関連性などを追究した。その中で、生徒は環境問題には様々な要因があることを理解したが、それらに共通する傾向性や課題相互の関連性、地域性があることや、それぞれの主体や国の「立場性」まで考えることができていない。実際に、環境問題の解決に向けてどのようなことが重要か振り返りをさせても、先進諸国で生活する日本の立場からの言及しかできていない生徒が多かった。

○指導観

食料問題は、その国が置かれている状況によって現状とその要因は異なり、国を越えた関係性や、その解決の方向性を考える際は「立場性」などを考慮する必要がある。そこで、食料問題を、置かれた立場や文脈性を考慮し、社会事象の地理的な見方・考え方を働かせて空間的な関係性に着目し、比較・分析をした上で、先進諸国と発展途上国で共通する傾向性や相違点があること、そして、スケールや立場が変わると課題の捉え方も変容することや他の課題との関連性もあることを理解させたい。また、食料問題の解決策を、先進諸国側と発展途上国側の現状を比較することで、双方の「立場性」の違いにも着目し、双方合意が得られる形、すなわち、どちらかの立場のみの視点で捉え、ある国や地域のみの取組に陥らない解決策を最終的には考えさせたい。

特に、「思考ツール²」を活用することで、自分が今何を根拠に考察しているのか、そしてその考察の結果どのような関係性を見出し、自分の考えがどのように深化したり変容したりしているのかなどを表出させたい（※以下、「思考の見える化」とする）。この「思考の見える化」によって、生徒自身が根拠を基に考察を行い、先進諸国と発展途上国の共通性や相違点、とりわけ双方の「立場性」の違いを理

² Xチャートやダイヤモンドランキングのように、学習者の思考のプロセスや思考の状態を明示的に表現できるツール。

解しやすくなると考える。

本実践では、単元全体を通して、「思考ツール」の一つである「ダイヤモンドランキング³」を活用して食料問題の解決策の有効性や限界性について判断させる。「①学習前に主観でランキング付けしたもの」、「②学習を進める中である程度根拠を基にランキング付けしたもの」、「③具体的な国の事例を限定してランキング付けしたもの」など学習時期や条件に応じて、ランキングを都度作成させる。そして、学習の過程でそのランキングが変容していくことに気付かせることや、生徒同士でそれぞれのランキングの共通点や相違点を比較させ、その理由を考えさせること（メタ認知）などによって、スケールの違いや「立場性」の違いによって選択すべき解決策が異なることに気付かせ、解決策は、双方合意が得られる形、すなわち、ある国や地域のみでの取組に偏らないこと（国際協力が必要であること）が重要であることを理解させたい。

7. 単元の目標

- ・食料問題について複数の資料から必要な情報を的確に読み取り、国や地域によってその実態や要因には共通する傾向性や課題相互の関連性、地域性などがあること、またその解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。（知識及び技能）
- ・食料問題について地理的な見方・考え方を働かせ、複数の「立場性」を踏まえてその現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。（思考力、判断力、表現力等）
- ・持続可能な社会の実現を視野に世界で起こっている食料問題について日常生活に照らし合わせて自分事として捉え、主体的に追究し、解決しようとする態度を養う。（学びに向かう姿勢、人間性等）

8. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食料問題について複数の資料から必要な情報を的確に読み取り、国や地域によってその実態や要因には共通する傾向性や課題相互の関連性、地域性などがあること、またその解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解している。	食料問題について地理的な見方・考え方を働かせ、複数の「立場性」を踏まえてその現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、解決に向けて必要なことを判断・表現している。	持続可能な社会の実現を視野に世界で起こっている食料問題について日常生活に照らし合わせて自分事として捉え、主体的に追究し、解決しようとしている。

³ 原因や問題の解決策など複数ある要素を、最も重要なものから最も重要性の低いものへと上位から下位へランキング付けするもの

9. 指導と評価の計画（全8時間） ○：「評定に用いる評価」 ●：「学習改善につなげる評価」

次	時 ・ 計	学習活動	知 ・ 技	思 ・ 判 ・ 表	主 学 態	評価規準	評価 方法
1	1 ・ 1	【食料問題の認知】 ・ 現在世界で起こっている食料問題の確認 ・ 単元を貫く問いの答えを予想（仮説を立てる） ・ これまで学習したことを踏まえて料問題の要因を予想 ・ 食料問題解決策の検討①	●			●現在、どのような食料問題が起こっているか理解している。	・ 考査 ・ 単元シート
2	2 ・ 3	【発展途上国の食料問題とその要因】 ・ 発展途上国における食料問題の現状の理解とその要因の考察 ・ 食料問題解決策の検討②	○			○複数の資料から発展途上国における食料問題の現状と要因を理解している。	・ ワークシート ・ 考査
	2 ・ 5	【先進諸国の食料問題とその要因】 ・ 先進諸国における食料問題の現状の理解とその要因の考察 ・ 先進諸国における食料問題と私たちのつながりを理解 ・ 食料問題解決策の検討③	○			○先進諸国で起こっている食料問題の特徴を理解し、その問題に我々がどのように関わっているかを理解している。	・ ワークシート ・ 考査
	1 ・ 6	【食料問題における先進諸国と発展途上国の関係性】 ・ 食料問題における共通点と相違点の分析 ・ 先進諸国からみた食料問題と発展途上国からみた食料問題		●		●先進諸国と発展途上国の空間的な関係性に着目し、食料問題に見られる共通性や相違点を分析し、双方の「立場性」などを踏まえて X チャートに表現している。	・ 単元シート ・ ワークシート

3	1・7 (本時)	<p>【「立場性」を踏まえた食料問題の解決策の選択】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決に向けた取組の分類 ・個別具体的な事例における解決策について、解決策を提案する立場の違いや直接的か間接的かなどの視点で分類し、選択・判断 ・食料問題解決策の検討④ 	○	●	<p>○先進諸国や発展途上国がそれぞれ置かれている状況によって優先的に選択すべき解決策が異なることや、地球的課題の解決には国際的な協力が必要であることを理解している。</p> <p>●食料問題について地理的な見方・考え方を働かせ、複数の「立場性」を踏まえてその現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・単元シート ・考査
	1・8	<p>【食料問題解決に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食料問題と他の問題との関係性の理解 ・総括的な課題に取り組む ・単元の振り返りを行う ・事後課題等 <p>パフォーマンス課題</p> <p>『「日本で生活する高校生」の立場で世界の食料問題の解決策を提案しよう。』</p>	○	○	<p>○食料問題の要因を他の地球的課題とも関連付けて関係構造図に表現している。</p> <p>○持続可能な社会の実現を視野に世界で起こっている食料問題について日常生活に照らし合わせて自分事として捉え、主体的に追究し、解決しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元シート ・単元の振り返り

※評価項目の「単元シート」について（巻末参考資料）

・「単元シート」とは、単元の問いや単元の目標、単元の流れを示し、単元という一つのまとまりを可視化したワークシートのことである。各時間のまとめや振り返りを記述する欄、単元の問いに対する総括的な課題の最初の考えと授業後の考えを記述する欄、そして、その評価基準を掲載している。さらに、本単元では、作成段階ごとのダイヤモンドランキングについて、「優先順位が最も高い取組と最も低い取組を選んだ理由」と「取組の優先順位を考える際に、どのような観点（視点）を重視したか」を記述する表を掲載しており、生徒自身が単元の学習を通して自身の考え方の変容を感じられる構成になっている。

10. 単元における問いと課題の構造

導入の問い ⁴	世界の食料供給は十分なのだろうか？		
単元を貫く問い	世界の食料問題解決は「食料を援助する」「食品ロスをなくす」ことで十分か？		
SQ ⁵ 1（第1次）	SQ2（第2次）	SQ3（第2次）	SQ4（第3次）
現在世界ではどのような食料問題が起きているのだろうか？	先進諸国と発展途上国の食料問題の要因は何だろうか？	世界的には十分な食料生産があるのに、飢餓に苦しむ人がいるのはなぜだろうか？	世界の食料問題解決に向けて大切な視点は何かだろうか？
形成的な課題 ⁶ 1	形成的な課題 2	形成的な課題 3	形成的な課題 4
現在世界で起きている食料問題をリストアップした上で、単元を貫く問いの仮説を立てよう。	地域差に留意して食料問題の実情とその要因について説明しよう。	世界というスケールで食料問題を捉えて、関係性を X チャートに表現しよう。	他の問題との関係性を示した上で、食料問題解決に向けて大切なことを説明しよう。
総括的な課題 ⁷	単元を貫く問い「世界の食料問題解決は『食料を援助する』『食品ロスをなくす』ことで十分か？」について論証（根拠を基に自分の考えを表現）しよう。		
パフォーマンス課題	「日本で生活する高校生」の立場で世界の食料問題の解決策を提案しよう。		

なお、この単元の構造図は、実践者も執筆にかかわった、草原・大坂（2021）⁸の単元構成論における単元の構造図を基にしつつ、実践者が一部改変しているものである。

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・発展途上国における食糧問題は、それぞれの国が置かれている状況によって優先的に選択すべき解決策が異なることや、地球的課題の解決には国際的な協力が必要であることを理解する。（知識及び技能）
- ・発展途上国における食料問題について地理的な見方・考え方を働かせ、複数の「立場性」を踏まえてその現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。（思考力、判断力、表現力等）

⁴ 単元を貫く問いを提示するための問いであり、学習者にとって主題の追究のスタートとなる問い。

⁵ 実践者は、単元を問いの構造で整理し、大きな問いから順に、単元を貫く問い⇒本次の問い⇒本時の問いとしている。この場合の本次の問いが「SQ（Supporting Question）」であり、単元の中にあるいくつかの学習のまとまりを追究する際の問いとなる。この問いは、学習者による主題の追究が段階的になるようにサポートする目的もある。

⁶ 各 SQ について答える活動である。これを段階的に行うことで単元を貫く問いの解答につながる。

⁷ 単元を通じて単元を貫く問いを粘り強く追究した成果を学習者が表現するための課題である。

⁸ 草原・大坂編（2021）

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
発展途上国における食糧問題は、それぞれの国が置かれている状況によって優先的に選択すべき解決策が異なることや、地球的課題の解決には国際的な協力が必要であることを理解している。	発展途上国における食料問題について地理的な見方・考え方を働かせ、複数の「立場性」を踏まえてその現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	

(3) 準備物

- ・ワークシート、単元シート、タブレット（アプリ：ロイロノート⁹）

(4) 学習の展開

	主な問いと学習活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】（評価方法）
導入	<p>【ダイヤモンドランキングの確認】</p> <p>○自分が作成してきたダイヤモンドランキングの確認 →学習段階によって変化してきている</p> <p>◎同じ「食料問題の解決策」のはずなのになぜダイヤモンドランキングは変容するのか？（本時の問い）</p>	<p>・変化を読み取らせて本時の問いの提示につなげる。</p>	
展開 ①	<p>【解決に向けた取組の分類】</p> <p>・これまでダイヤモンドランキングを作成してきた9つの取組の確認</p> <p>○これまでダイヤモンドランキングを作成してきた9つの取組はどのように分類できるだろうか？</p>	<p>・マトリックスに整理し、可視化する →グループ間の比較を行う</p>	<p>・発展途上国における食糧問題は、それぞれの国が置かれている状況によって優先的に選択すべき解決策が異なることを理解している。【知識・技能】（考査）</p>
展開 ②	<p>【個別具体的な事例や立場を踏まえた分析】</p> <p>○次の事例の場合、先進諸国の立場、発展途上国の立場、国連や支援をする団体の立場であると、ダイヤモンドランキングはそれぞれどのようになるだろうか？</p>	<p>・グループの中で分担してそれぞれ作成し、比較をさせ、なぜ違いが生じるか考察させる。</p>	<p>・発展途上国における食料問題について地理的な見方・考え方を働かせ、複数の「立場性」を踏まえてその現状や要因、解決の方向性な</p>

⁹ 株式会社 LoiLo の教育アプリ「ロイロノート SCHOOL」

	<p>※事例①：絶対的貧困率が高く緊急性が求められるケース</p> <p>※事例②：格差が拡大してきており、中・長期性が求められるケース</p> <p>○グループの中でダイヤモンドランキングはどのように違い、それはなぜ違うのだろうか？</p>	<p>・それぞれ重視したことを表に整理させ、対立軸を導き出す。</p>	<p>どを多面的・多角的に考察し、表現している。【思考・判断・表現】(単元シート、ワークシート)</p>
終 結	<p>【まとめ (メタ認知)】</p> <p>◎同じ「食料問題の解決策」のはずなのに、なぜダイヤモンドランキングは変容するのか？ (本時の問いへの解答)</p> <p>○食料問題など地球的な課題の解決策を考える上で重要なことは何だろうか？</p>		

○第3次においてダイヤモンドランキングを用いて検討する9つの取組とランキングの作成手順

【手順】

1. 以下の9の取組について、「食料問題の解決に向けてどのような取組が有効か？」という問いに対してダイヤモンドランキングを作成しよう。
2. 優先順位が最も高い取組と最も低い取組を選んだ理由を単元シートに記入しよう。
3. 取組の優先順位を考える際に、どのような観点(視点)を重視したか単元シートに記入しよう。

【取組】¹⁰

<p>A：食料の援助</p> <p>飢餓や栄養不足に苦しむ人々に食料など支援物資を送付する(してもらう)。</p>	<p>B：資金の援助</p> <p>政府に資金援助を行う(行ってもら)。資金の使い方には制限をせずその国が自由に使える。</p>	<p>C：生産環境整備</p> <p>農業基盤を整えたり、栽培技術や品種改良の技術を教えたりする(してもらう)。</p>
<p>D：多くの人に情報発信</p> <p>その国の食料事情や食品ロスの問題など現在起こっていることをSNSなどを通して発信し、啓発活動のイベントを行う。</p>	<p>E：現地企業と共同事業</p> <p>現地の企業と連携して共同生産を行ったり、貿易を積極的に行ったりする。</p>	<p>F：経済活動の見直し</p> <p>フェアトレードの導入や食品ロスの減少、モノカルチャー経済からの脱却、食生活の改善などを旨とする。</p>
<p>G：アドボカシー活動</p> <p>食料問題解決に必要な政策や国際ルールが整備されるように民間の支援組織などとも連携し、国際会議や政府機関への提言を行う。</p>	<p>H：学校給食プログラムの導入</p> <p>子供たちが学校で朝食や昼食の配給を受ける。子供が一定の日数以上出席すると家族向けの食料を持ち帰ることもできる。</p>	<p>I：マイクロファイナンスの導入</p> <p>貧困層や低所得者層に用途は自由の小規模な貸し付けを行う。また、貯蓄や送金などの金融サービスも行う。</p>

¹⁰ 網掛けの色は、株式会社 LoiLo の教育アプリ「ロイロノート SCHOOL」のテキストカードの色と対応している。本実践はこのアプリを使用して実践している。

12. 総括的な課題のルーブリック

単元を貫く問い「世界の食料問題解決は『食料を援助する』『食品ロスをなくす』ことで十分か？」について論証（根拠を基に自分の考えを表現）しよう。

【ルーブリック】（思考・判断・表現）

評価	A（高度に達成できている）	B（達成できている）	C（努力を要する）
評価 基準	複数の資料から読み取った情報や食料問題を引き起こす構造などを根拠として挙げ、地理的な見方・考え方を働かせ、対立軸を明確化し、複数の立場に立って解決策の有効性について批評するとともに、自分の立場を明示して優先すべき解決策について考察・判断し、表現している。	複数の資料から読み取った情報を根拠として挙げ、地理的な見方・考え方を働かせ、解決策の有効性について複数の立場に立って考察・判断し、表現している。	客観的な根拠をあげずに自分の考えを表現している。もしくは、立場に触れずに食料問題解決の有効性について表現している。

13. 参考文献等

奥田（2021）：奥田修一郎「中学校公民的分野の授業開発－非正規雇用に着目して－」『経済教育』40.

戸井田（2022）：戸井田克己「「スケール思考」でとらえる食料問題」『社会科教育 2022年10月号』明治図書

草原・大坂（2021）：草原和博・大坂遊編著『学びの意味を追究した中学校地理の単元デザイン』明治図書、2021年

黒崎・栗田（2016）：黒崎卓・栗田匡相『ストーリーで学ぶ開発経済学－途上国の暮らしを考える』有斐閣、2016年

坂内・大江（2008）：坂内久・大江徹男編『燃料か食料か－バイオエタノールの真実』日本経済評論社、2008年

柴田（2014）：柴田明夫『中国のブタが世界を動かす－食の「資源戦争」最前線』毎日新聞社、2014年

鈴木（2009）：鈴木宜弘『現代の食料・農業問題－誤解から打開へ－』創森社、2009年

橋本（2023）：橋本直樹『持続可能な社会における食料問題－日本の農業と食生活を維持するために－』筑波書房、2023年

八木（2013）：八木宏典『最新 世界の農業と食料問題のすべてがわかる本』ナツメ社、2013年

F・リンベリー他（2015）：F・リンベリー他『ファーマゲドナー安い肉の本当のコスト』日経BP、2015年

NHK 食料危機取材班（2010）：NHK 食料危機取材班『ランドラッシュー激化する世界農地争奪戦－』新潮社、2010年

2年地理総合単元シート

2年 組 番 氏名 ()

単元名：世界の食料問題

単元の問い：世界の食料問題解決は「食料を援助する」「食品ロスをなくす」ことで十分か？

この単元で意識するSDGsの視点



2 飢餓をなくす



10 貧困をなくす



12 持続可能な消費と生産

【単元の問いに対する最初の考え(予想・仮説)】

【単元の問いに対する考え(自分なりの答え)】

足りない場合は書きへ

【単元の目的】

- ・食料問題は国や地域によって状況が異なり、その原因も異なることを理解することができること
- ・食料問題を複数の立場性や複数の立場性から捉え、解決に向けて必要なことを理解することができる。
- ・食料問題を複数の立場性や複数の立場性から捉え、解決に向けて必要なことを理解することができる。

【単元の深めと各単元のまとめ・振り返り】 ※No.21は省略

【単元の問いに対する考えの評価基準】

A：複数の資料から読み取れることや食料問題を引き起こす背景などを把握し、複数の立場性に基づいて食料問題解決の有効性について説明している。

B：複数の資料から読み取れることや食料問題を引き起こす背景などを把握し、立場を明示しながら食料問題解決の有効性について説明している。

C：積極的な提案をあげずに自分の考えを表現している。もしくは、立場に拘らずに食料問題解決の有効性について説明している。

(ダイアモンドラウンジについて)

No.22：なぜ農業を中心産業としている国が食料を輸入する？

No.25-26：世界の食料問題解決に向けて大切な視点は？

No.23：なぜ先進国の食料問題は起るのだろうか？

No.24：世界で十分な食料生産あるのになぜ食料に苦しむの？

回数	意見の相違点も異なり理由を記入し理由を記入し理由	理由の優先順位を考ふる際に、どのような理由(理由)を重視したか
1 No.21		
2 No.22		
3 No.23		
4 No.25		

本実践を終えて

本実践の成果は大きく二つある。

一つ目は、主題間の関連性を意識し、前単元の課題を克服したことである。前単元を終えた時点では、地球的課題の解決に向けて、「立場性」を意識するという視点が欠如していたが、本単元における実践で、立場やスケールが変わるとその問題の置かれた状況も異なり、取るべき解決策や優先すべき事項も異なることをダイヤモンドランキングの変容要因をメタ認知することで理解することができた。また、前単元では、様々な環境問題間の関連性に気付くことができていたが、本単元の実践によって、環境問題と食料問題の関連性にも気付くことができた。地理総合、大項目 B「国際理解と国際協力」、中項目 (2)「地球的課題と国際協力」では、扱う主題としては様々なものが考えられるが、地球的課題同士の関連性を考察することができ、かつ、追究することで生徒がステップアップできるような主題を選定して設定することが重要であると考えた。このように、実践者が意図(目的)をもって主題を設定していくことが、昨今の地理教育、特に地理総合では求められていると考えている。

二つ目は、地理的な見方・考え方を明示的に働かせることや「思考ツール」の活用が「学ぶ意味や意義」の実感につながったことである。本実践では特に、空間的な関係性の見方・考え方を働かせて食料問題を世界スケールで捉えた。そのことにより、これまであまり関係のないことだと思っていたことが実は自分たちも関係しており、食料問題の要因も多岐にわたることに生徒も気付いていた。だからこそ、様々な取組を考えることや、もっと学ぶ必要があると考えようになったようである。実際に、生徒の振り返りには、「食料問題は自分にとって一見無関係だと思っていたが、実は関係のあることで、自分たちの行動も問題に関係することがあることに気付けた」「問題の複雑さについて知ることができ、もっと学んでみたいと思うようになった」などのような記述があった。また、食料問題における「立場性」をメタ認知するために活用したダイヤモンドランキングについては、「立場によって大きく異なることや共通していることが分かりやすく、最終的には自分が大切にしていることは何かも分かった」「視点が徐々に増え、自分の考えの変化が視覚化できた」「視点を変えることが新しい解決策の考案につながる」など生徒自身でその有用性について気付いており、「思考ツール」を活用した学習の意義の実感や生徒の今後の学習につながる可能性を感じることができた。

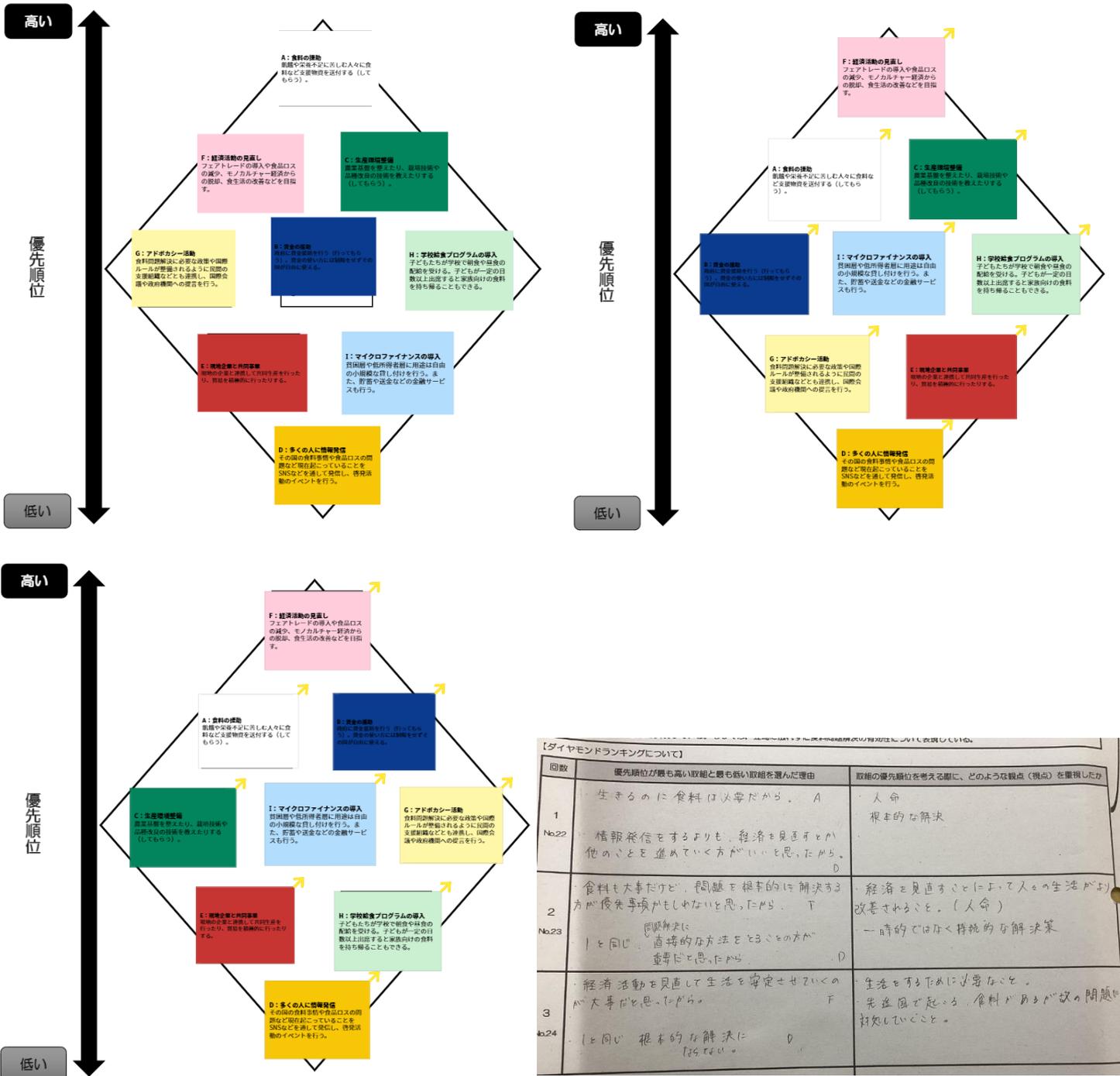
一方で本実践の課題としては次の二つが考えられる。

一つ目は、発展途上国や先進諸国という括りによって、固定観念を形成してしまう可能性があることである。今回の実践では、発展途上国と先進諸国の食料問題の現状とその要因が異なることを学習のスタートとし、両者の関係性の考察や、置かれた状況が異なることで優先すべき取組が異なることについて主に考えた。確かに、地理学習において、一般的な規則性や傾向性を理解することが重要ではあるが、現在の社会ではそこまで単純に捉えることができないのも事実である。実際は、発展途上国にも様々な国があったり、先進諸国の中にも、政府や自治体、企業、高校生のように様々な立場があったりするので、もう少し具体的な事例を踏まえて様々な国を扱ったり、様々な立場に立たせて取組を考えさせたりするべきであったかもしれない。

二つ目は、生徒自身の問題意識に基づいて課題を追究できていないことである。今回の実践は、確かに生徒自身が「学ぶ意味や意義」を実感することにつながっているものの、それが一過性にすぎない可能性がある。生徒が自身の問題意識に基づいて主題を設定した上で、これまで獲得した視点や思考方法を活用して問題を分析し、表現することで、「○○ができるようになったから、学んだ甲斐があった。だから、そのことを自身の学びにも活用してこれからも□□(教科目)を学び続けたい。」というように、将来にわたって継続する真の「学ぶ意味や意義」の実感につながるのではないかと考える。

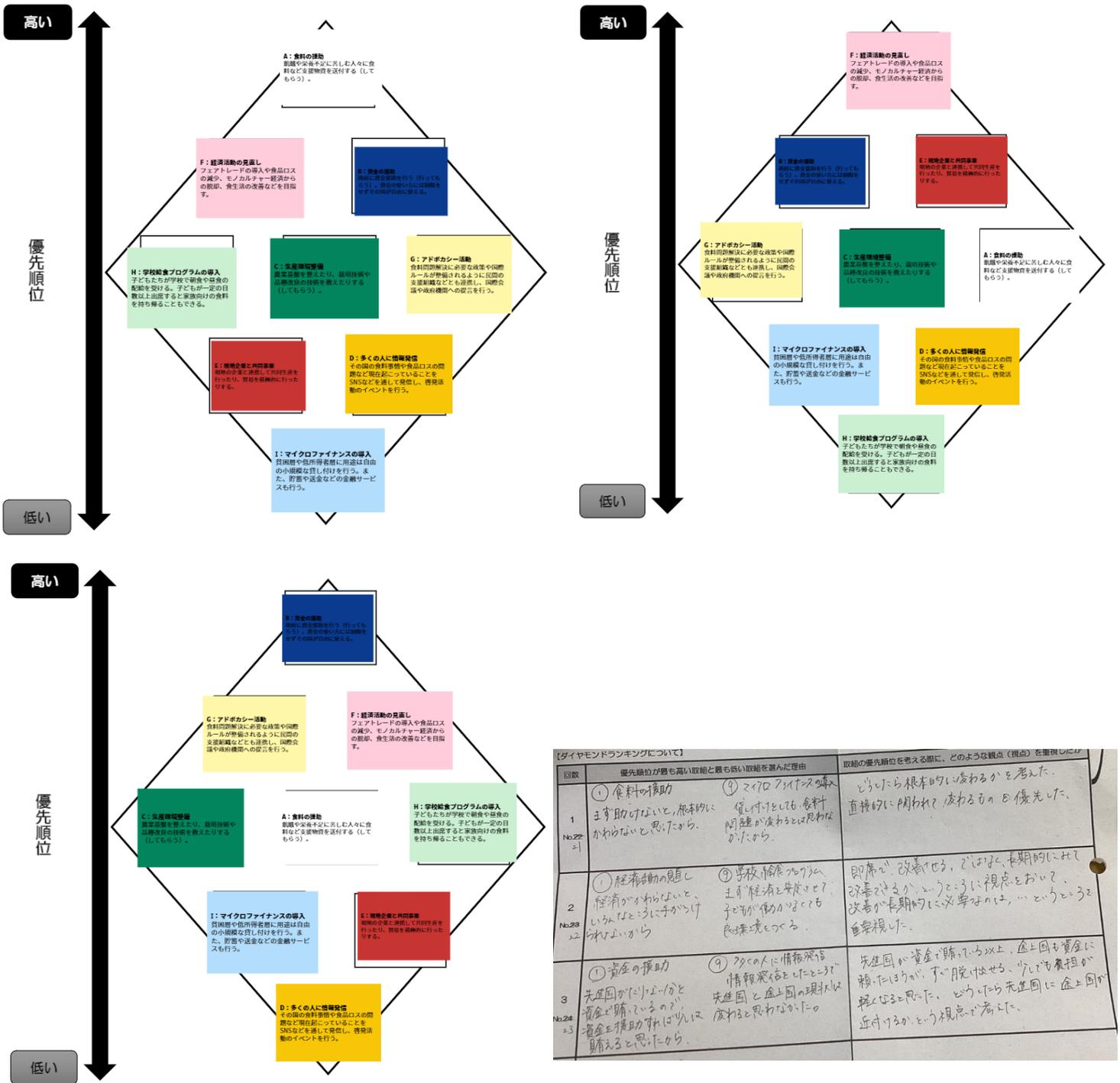
○本時までの生徒のダイヤモンドランキングの変化

【各時間の学習内容を重視してランキングを作成している例¹¹】



¹¹ 各時間の学習内容ごとに、「食料問題の解決に向けてどのような取組が有効か？」という問いに対して優先順位を決めている。

【学習を重ねるにつれて視点が付随されていながらランキングを作成している例¹²⁾】

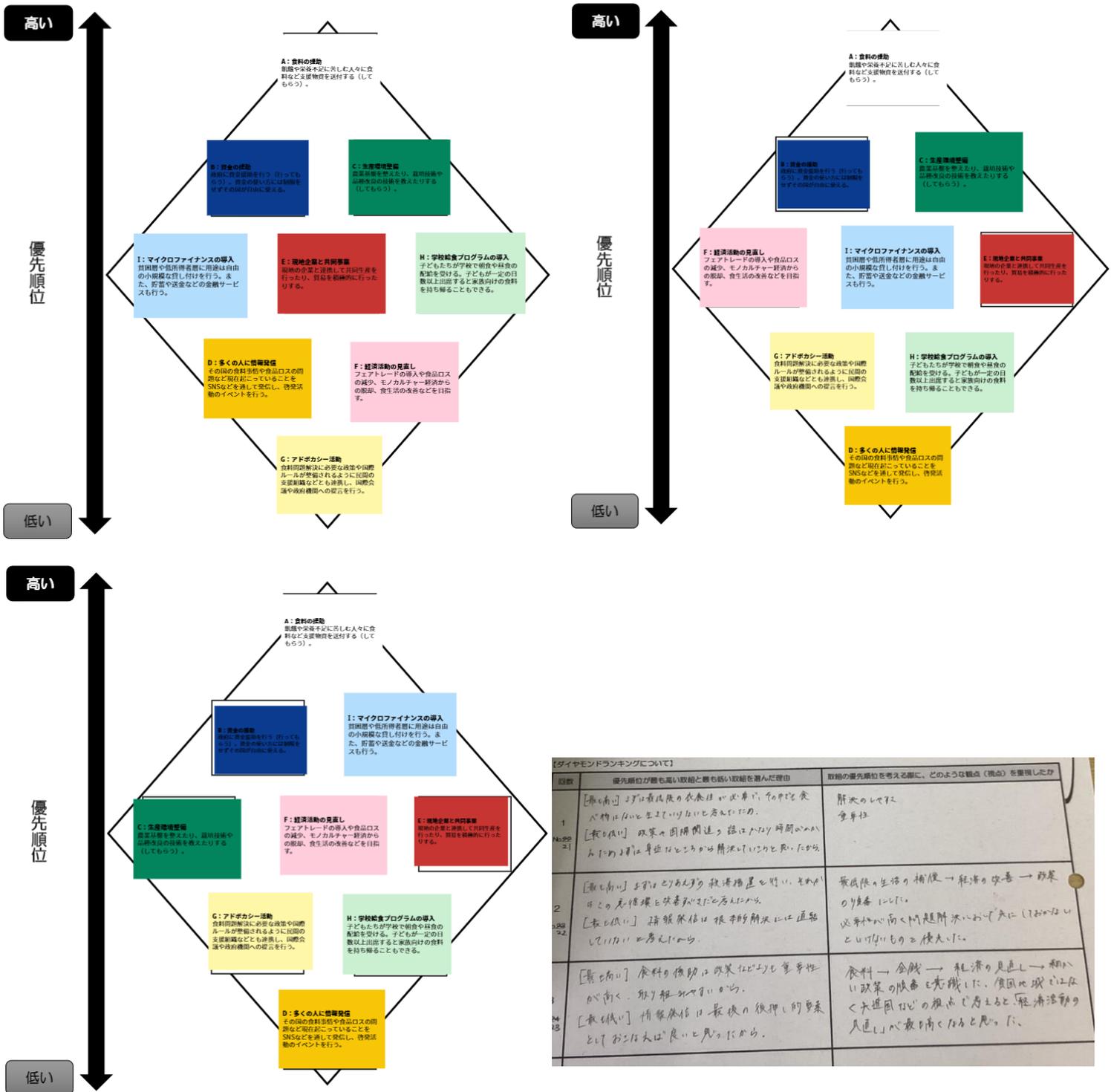


【ダイヤモンドランキングについて】

回数	優先順位が最も高い取組と最も低い取組を記入理由	取組の優先順位を考える際、どのような視点(視点)を重視したか	
1 No.22 =1	① 食料の援助 王守助けはいい、基本的に かわらないうちから	④ マイロファイナンス 貸し付けはいい、食料 問題は後からでいいから	どうやら根本的に変わるかと考えた。 直接的に開かれ、後からその優先位。
2 No.29 =2	① 経済活動の促進 経済がかわらないうちから いいように手から	③ 学校給食プログラムの導入 王守経済と食料とで、 子どもがかわらないうちから 良環境とで	即席で改善して、この長期の視点 改善させるか、どうやらこの視点 改善が長期的に必要なのは、どうやら 重要視した。
3 No.24 =3	① 資金の援助 先世国が資金援助、7割以上、 資金が購入している、 資金を援助すればいいと思 購入すると思はないうちから	④ 多くの人に情報発信 先世国に食料の現状は どうやら先世国に食料 近付ける、この視点で高	先世国が資金援助、7割以上、 食料も資金に 頼らなければ、その負担が 軽減される。どうやら先世国に食料 近付ける、この視点で高

¹²⁾ 各時間の学習だけではなく、前時までの学習内容も踏まえつつ、「食料問題の解決に向けてどのような取組が有効か？」という問いに対して、考える視点を付け加えている。

【自分なりの基準（立場）を定めてランキングを作成している例¹³】



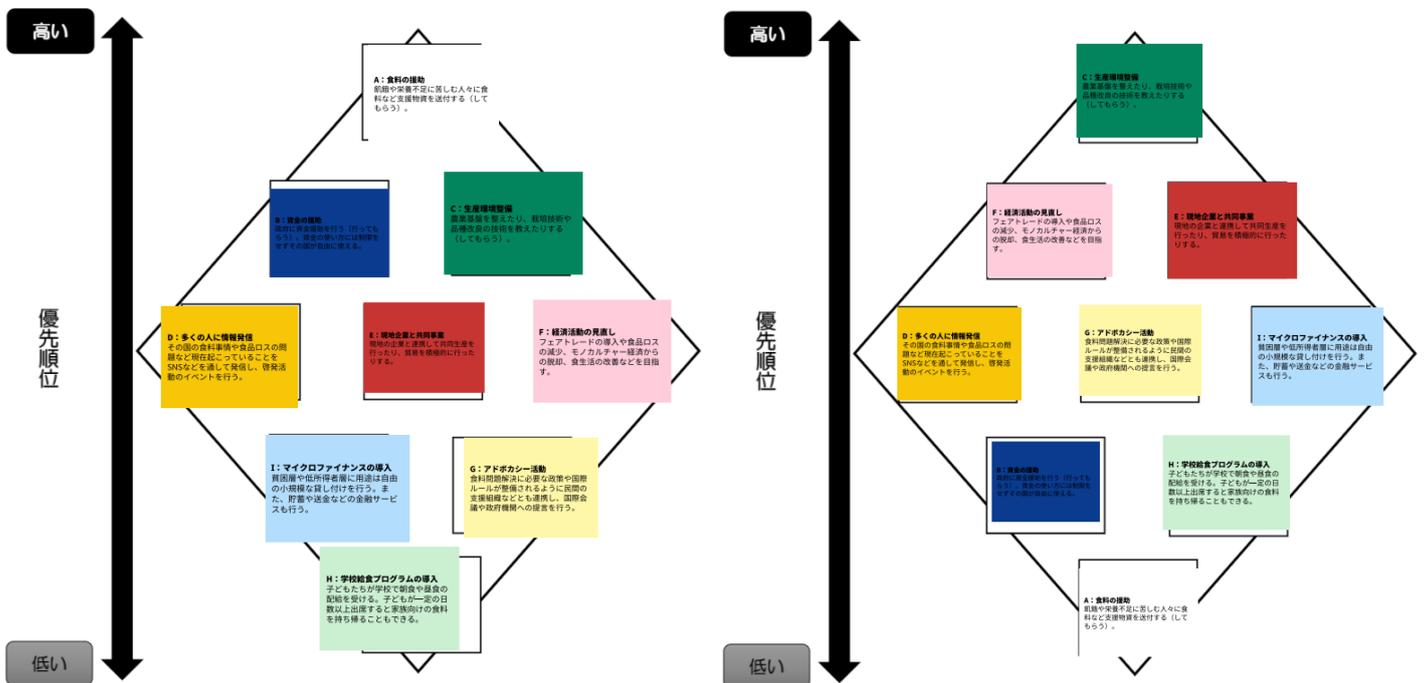
¹³ 何かの視点や立場を自分なりの基準で定めて、「食料問題の解決に向けてどのような取組が有効か？」という問いに答えている。

○本時の活動②におけるあるグループの成果物¹⁴

活動②：次の2つの事例について、「先進諸国の立場」「国連や支援をする団体の立場」「発展途上国の立場」からそれぞれ「その国の食料問題の解決に向けてどのような取組が有効か？」という問いに対してダイヤモンドランキングを作成しよう。そして、グループの中でダイヤモンドランキングがどのように、なぜそうなるのか議論しよう。

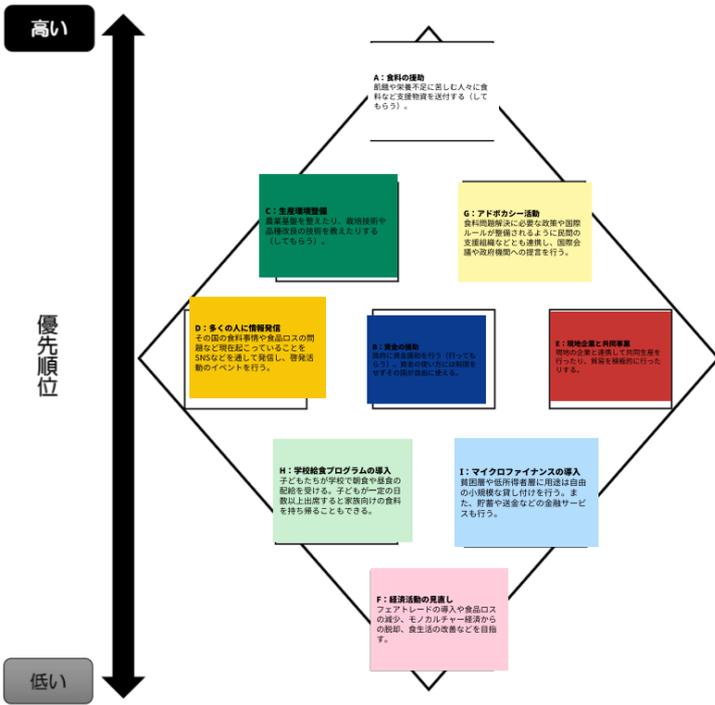
事例①	事例②
<p>この国の主要産業は農業で、小規模な家族経営が多く、自給的な栽培が中心である。農村部を中心に貧困率や栄養不足人口割合が極めて高く、人々は毎日の食事の確保に苦勞するなど、慢性的な栄養不足に陥っている。残念ながら栄養失調などで多くの子供たちが日々亡くなっている。</p> <p>灌漑設備等農業をする環境も整っていない中で今年干ばつが発生し、かなり深刻な食料不足にまわれ、援助の不足もある中で多くの犠牲者が出ている。</p>	<p>この国の主要産業は長い間農業であったが、近年は鉱産資源の輸出や軽工業製品の輸出も増えてきている。農村部を中心に未だに貧困率は高いが、外貨獲得のために農作物を栽培する環境が少しずつ整備され、農家の収入も増加してきており、栄養不足の状態は改善されつつある。しかし、経済的な格差が拡大し、今後、食料供給が安定するかはまだ分からない。</p> <p>インフラの整備も遅れ、輸出港まで農作物を輸出する手段も不足しているなど国の経済状況はまだ不安定で、技術なども確立されていない。</p>

【先進諸国の立場のダイヤモンドランキングと事例①（左）から事例②（右）の変容】

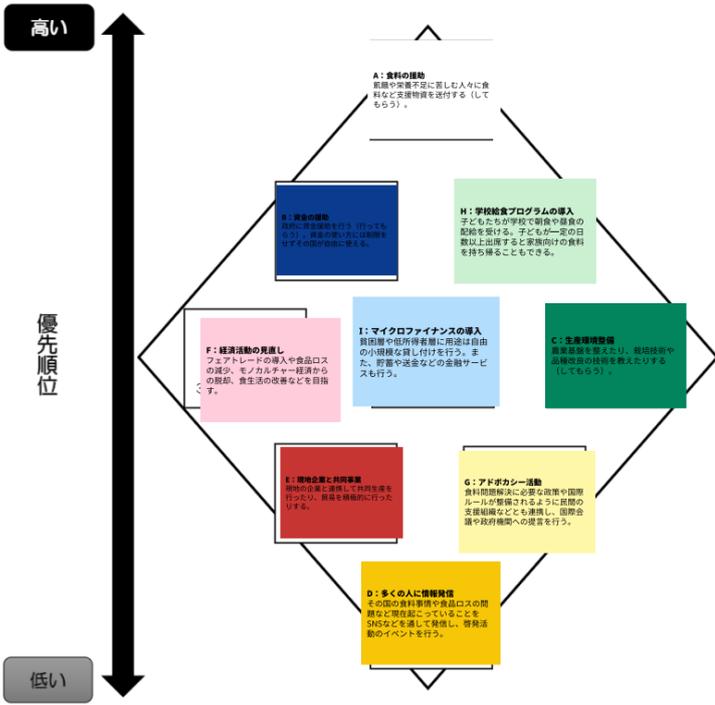


¹⁴ 株式会社 LoiLo の教育アプリ「ロイロノート SCHOOL」の共有ノート機能を使用し、グループ単位で共同編集を行うことで作成した。

【国連や支援をする団体の立場のダイヤモンドランキングと事例①（左）から事例②（右）の変容】



【発展途上国の立場のダイヤモンドランキングと事例①（左）から事例②（右）の変容】



【各立場における事例①と事例②のダイヤモンドランキングの理由や重視したこと】

【事例①のランキングの理由や重視したこと】

先進国の立場	国連や支援をする団体の立場	発展途上国の立場
<p>まずは今すぐ必要な貧困のサポート(労働力確保)をするために食料や資金援助をして、安定してきたらそれを継続できる政策などを進めていくようにした(自分たちと貿易してもらうため)</p>	<p>食べ物の確保に苦勞しているのととりあえず支援して、次に農業基盤を整わせる</p> <p>経済は後でいいのでFは優先しない</p>	<p>とにかく人が亡くなっている現状なので、早く処置が効きそうな対策がまず必要</p> <p>人口の多さを生かす</p>

【事例②のランキングの理由や重視したこと】

先進国の立場	国連や支援をする団体の立場	発展途上国の立場
<p>食料は比較的安定しているとして、生産環境を整えて共同事業などをすることで国の経済状況を確認してさらに活発的に貿易できるようにした</p>	<p>農作物を栽培する環境は整備されつつあるから、フェアトレードの導入を進めるように呼びかけたり、資金の援助などをして経済的格差をなくしていくことを優先した</p>	<p>食料供給の安定性などの即効性よりも長期的に、将来的に改善できそうなことを優先した</p>